

米国 減少基調変わらず（09年11月消費者信用残高）

発表日：2010年1月12日（火）

～減少額は過去最大～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 近江澤 猛

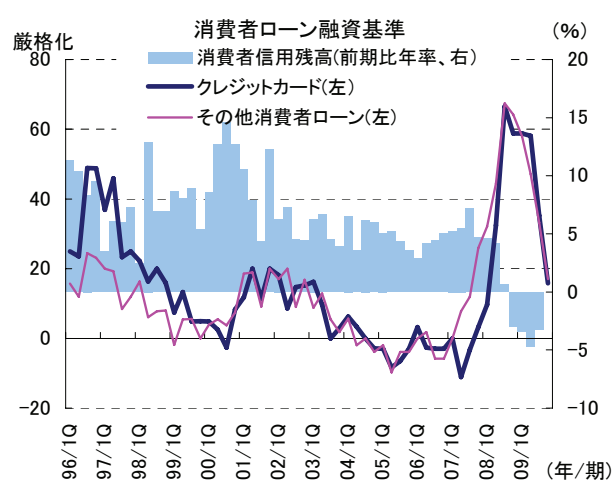
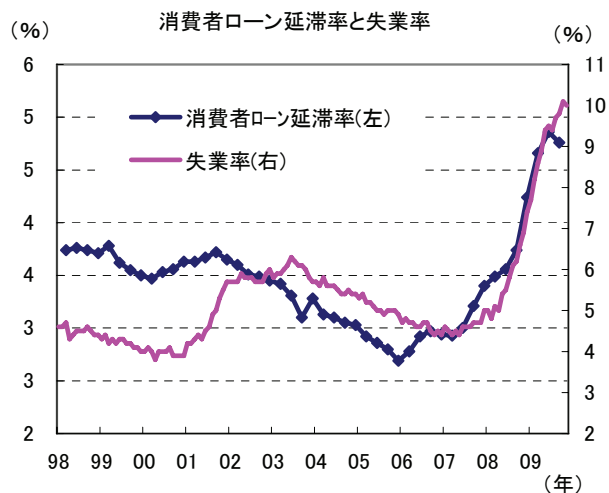
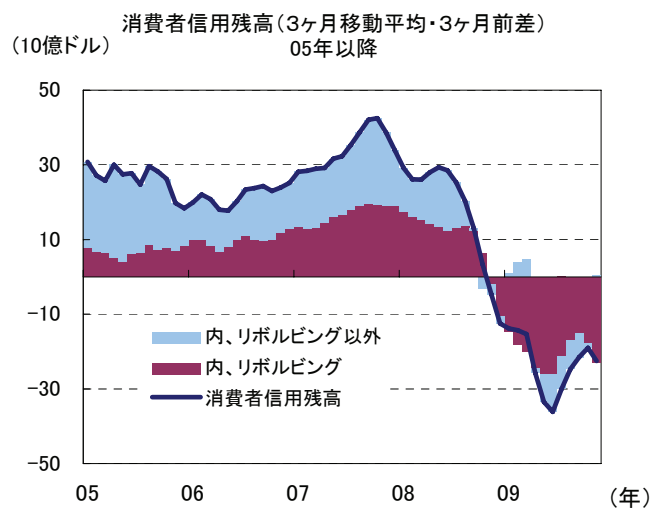
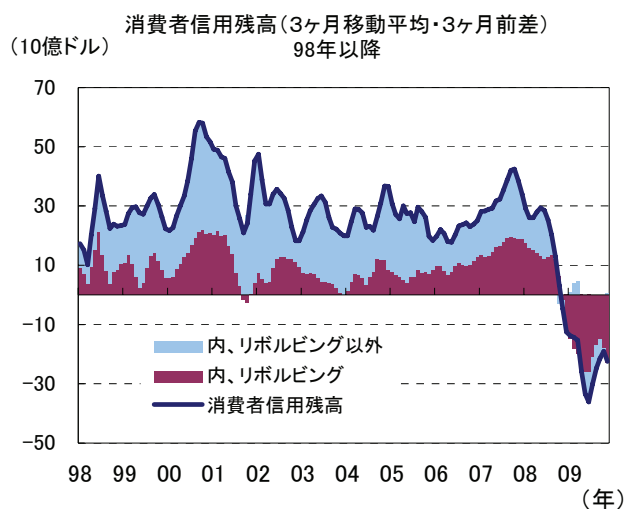
03-5221-4526

- 09年11月の消費者信用残高（季節調整済）は2兆4646億ドル、前月差▲175億ドル（前月比年率▲8.5%）と、市場予想の同▲50億ドルを大幅に上回る減少となった。前月比での減少は10ヵ月連続となり統計開始以来最長、減少額も過去最大となった。本統計は月次での変動が大きいことから3ヵ月移動平均・3ヵ月前差で均してみると▲225億ドルと、前月▲190億ドルから減少ペースは加速しており、下げ止まりの兆しは見えていない。厳しい雇用環境を受け消費者ローン延滞率は高水準にあり、消費者ローンの融資基準も厳しい状況が続いたことに加え、家計はバランスシート調整を続けていることが窺われる。
- 内訳はリボルビング（クレジットカード等）が前月差▲137億ドル（前月比年率▲18.5%）と前月同▲74億ドル（同▲9.9%）から減少幅は拡大。前月比での減少は14ヵ月連続で、今次減少局面でも減少幅は最大を記録し、減少に歯止めは掛かっていない。リボルビング以外（自動車ローン、モービルホームローン、教育ローン等）は、同▲38億ドル（同▲2.9%）と前月同+32億ドル（同+2.4%）から再び減少に転じた。
- 先行きの消費者信用残高だが、大幅に需給ギャップが拡大したことから今後も失業率が高水準で推移すると見られ、厳しい雇用環境を受け消費者ローンの延滞率も高水準で推移することが予想される状況で、金融機関の貸出態度も緩和するには時間がかかると見られる。また、可処分所得比でみた消費者信用残高は80～90年代平均と比較して高水準にあり調整余地があると見られることから、家計のバランスシートの調整が続くと考えられ、消費者信用の減少基調が今後も続くことが予想される。

	消費者信用残高(10億ドル)			リボルビング(10億ドル)		リボルビング以外(10億ドル)	
		前月差	前月比年率(%)		前月差		前月差
08/12	2559.1	▲ 5.4	▲ 2.5	957.3	▲ 6.6	1601.8	1.2
09/01	2564.4	5.3	2.5	955.4	▲ 1.9	1609.0	7.2
09/02	2551.4	▲ 13.0	▲ 6.1	942.7	▲ 12.7	1608.7	▲ 0.3
09/03	2537.0	▲ 14.4	▲ 6.8	934.3	▲ 8.4	1602.7	▲ 6.0
09/04	2522.3	▲ 14.6	▲ 6.9	925.9	▲ 8.3	1596.4	▲ 6.3
09/05	2515.3	▲ 7.1	▲ 3.4	916.6	▲ 9.3	1598.7	2.3
09/06	2506.8	▲ 8.5	▲ 4.1	911.7	▲ 4.9	1595.1	▲ 3.6
09/07	2498.5	▲ 8.2	▲ 3.9	911.0	▲ 0.7	1587.5	▲ 7.6
09/08	2495.2	▲ 3.4	▲ 1.6	903.0	▲ 8.0	1592.2	4.7
09/09	2486.3	▲ 8.9	▲ 4.3	895.0	▲ 7.9	1591.2	▲ 0.9
09/10	2482.1	▲ 4.2	▲ 2.0	887.7	▲ 7.4	1594.4	3.2
09/11	2464.6	▲ 17.5	▲ 8.5	874.0	▲ 13.7	1590.6	▲ 3.8

（出所）FRB

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



※3大自動車メーカー傘下のファイナンス会社利用者の借入額平均

(出所)FRB、米労働省

